

# ブラッドパッチ療法の保険適用及び脳脊髄液減少症の治療推進を求める要望書

脳脊髄液減少症は交通事故やスポーツ外傷等、身体への強い衝撃により、脳脊髄液が漏れ、頭痛、めまい、吐き気、倦怠感等の多種多様な症状が複合的に現れる病気です。その症状は、外見的には見えないため、患者は、医療現場や交通事故時の保険関係者等の無理解に、心身ともに計り知れない苦渋を味わってきました。

平成 23 年 5 月、厚生労働省・嘉山研究班の報告書に「交通事故を含め外傷による脳脊髄液の漏れは決して稀ではない。」と明記され、一人の医師の先駆的発想が、初めて公的に認められました。さらに、脳脊髄液減少症の一部である「脳脊髄液漏出症」の診断基準が定められ、治療法であるブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）が「先進医療」として承認され、平成 26 年 1 月の先進医療会議では、全国各地の症例報告 527 件中、治療が有効とされたのは 432 件であり、実に 82% という有効率でした。

嘉山研究班による 9 年に及ぶ脳脊髄液減少症の研究は、遂に、平成 26 年度に初期目標を達成し、その事業報告書に「脳脊髄液漏出症に対するブラッドパッチ療法は有効かつ安全な治療法であることが期待される。」と明記されました。更に、平成 27 年度中には「世界初の公的機関による外傷を機に発生する脳脊髄液の漏れ」の診断基準も完成される予定であります。現在、ブラッドパッチ療法の保険適用にむけての環境は全て整いました。よって、国においては次の事項について早期に実現されるよう強く要望致します。

## 要 望 事 項

1. 平成 28 年 4 月には、脳脊髄液減少症の治療法であるブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）を必ず保険適用としていただきたい。
2. 厚生労働省の研究事業において、18 歳未満の症例を加えていただきたい。
3. 早期発見・早期治療のため、医療関係機関等に脳脊髄液減少症についての最新の情報を提供していただきたい。

平成 27 年 月 日

脳脊髄液減少症患者支援の会

代表 大平千秋

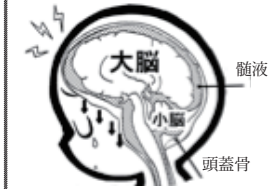
事務局 川野小夜子

脳脊髄液減少症・子ども支援チーム

代表 鈴木裕子

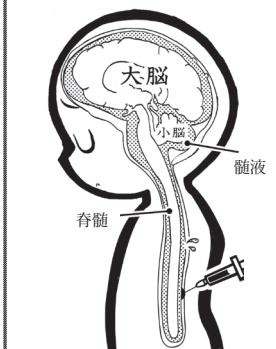
内閣総理大臣 総務大臣 国土交通大臣  
厚生労働大臣 文部科学大臣

### ☆脳脊髄液減少症とは？



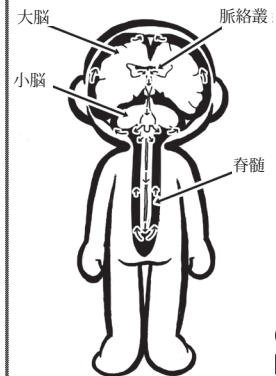
脳脊髄液が漏れると脳の神経がひっぱられて、さまざまな症状がでるのが特徴

### ☆ブラッドパッチとは？



硬膜外腔の髄液が漏れている周辺に血液を注入する

### ☆髄液の循環図



矢印のように髄液は循環している



モバイル署名です。

◎署名欄

お名前	お名前	お名前	お名前	お名前